

海旅業界

関西シニア会会報

発行人 恒松 一郎 海旅業界関西シニア会 大阪市西区江戸堀2-1-1 (江戸堀センタービル) 株式会社トラジャルウェスト内

2001
5月
第
12
号

ご挨拶

会長 恒松 一郎

12年の歴史をもつシニア会会長の大役をおおせつかり、責任の重さを感じております。このシニア会も12年を経過し、発展期・成熟期へと転換する時期に差しかかりつつあります。会員の皆様が一年一年歳をとってゆかれ、第一線をリタイアされる方も増えてきた現在、これからのこの会の存在意義がますます重さを増してくるものと思われまます。

21世紀における高齢化社会を少しでも楽しく潤いのあるものにするキーワードは沢山ありますが、私はこの会においては、ひとつは『健康』であり、一つは『パソコン』であると思ひます。

健康管理が重要なのは、いうまでもありません。この会でも、ゴルフ同好会とウォーキング同好会があり、年間を通じて実施されていますが、後者のほうは毎回集まりが良くありません。皆さん、家の近所のウォーキングだけでなく、四季折々の関西の近郊の散策に是非参加しようではありませんか。仲間と歩くのは楽しいものです。ストレスの解消にもなります。

パソコンは21世紀により楽しく生きようとする私どもにとって、必需品だとさえ感じます。かく申す私も、昨年2月の時点では、パソコンとは無縁のものだと思ひておりました。

ふとしたきっかけで、パソコンをキーとするグループに参加を求められたのが運の尽き？、始めはちんぷんかんぷんでしたが、4月に娘のパソコンを借り受け、6月に週一回パソコン教室(西宮)に通い始め、これが功を奏し、今では動画メール



に音楽をつけて送ったりしてメールの交友も増え、我ながら腕が上がったと自画自賛しております。その会では、74歳、73歳の大先輩がパソコンの大家で私は末席。パソコン学習に年齢なしと感じます。

本会において、会員同士の情報交換など活用方法は無限です。近況報告・趣味の話し合い・無料講演会情報(大学の公開講座等)・面白かった本の紹介・格安ゴルフ場や格安旅行情報・「何月何日のゴルフ会欠員あり参加しませんか」情報等々利用方法は自由自在です。将来的には、事務局に情報を集中し、まとめて会員各位にメール通信として流せば、ヴィヴィッドで価値ある情報が安価な手段で会員各位のお手許に即時に伝わり、本会の存在価値がより意義あるものになるのではないかと考えております。現在、当会会員でメールアドレスをお持ちの方は、名簿を見る限りまだまだ少ない状況です。一人でも多くの会員の方々からパソコン、この楽しいマジックに取り組まれるようお勧めいたします。

会員の皆様とともに、この会をより楽しい会にしてゆきたいと思ひます。是非、皆様方のご支援・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願ひ申し上げます。

第12回総会開催

海旅業界関西シニア会第12回総会が、2月10日(土)正午より、大阪梅田の関西文化サロンで開催されました。昨年より多い、41名の会員(委任状46名)が出席して予定通り議事が進行しました。前年度会計報告、新年度予算が承認された後、任期満了に伴う役員改選、ゴルフ同好会およびウォーキング同好会の活動報告などが行われました。総会後の昼食懇親会では、現役時代に競合したライバル同士も、和気あいあいのなか、ビンゴゲームを楽しみました。

総会で5代目の会長に就任した恒松氏は、「IT化時代にふさわしく、Eメールによるコミュニケーションを活発にして、会員同士の情報交換を一層密にしたい」と抱負を述べました。同時に下記の新役員が選任され、今後2年間にわたって会の運営にあたることになりました。

会 長	恒松 一郎(阪急トラベルサポート)
副 会 長	牧野 宏(元日本航空)
副会長兼会計	雌 次郎(元東急観光)
事 務 局 長	仲 功(トラベルビジョン)
幹 事 (ゴルフ同好会)	高橋 謙治(元JTB)
幹 事 (ウォーキング同好会)	高山 嘉明(テクノツアー)
会 計 監 査	福井 功(元ユナイテッド航空)

会員の動向

昨年度の会員の動向は以下のとおりです。

新入会員	境 暁士(阪急トラベルサポート)
	清野 進(トヨタ旅行ホテル専門学校)
	谷口 淳(元日通旅行)
計 報	宮本 健治(元日本航空)
	2000年10月逝去
	2001年3月末現在の会員数 139名(うち休会中10名)

海旅業界関西シニア会 平成12年度 会計報告書

自 平成12年1月1日
至 平成12年12月31日

支出の部		収入の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
総 会 費	361,640	入 会 金	4,000
部会活動費	87,390	年 会 費	472,000
懇親ビヤパーティ	189,997	総会新年会会費	254,000
会報制作費	115,500	懇親ビヤパーティ会費	152,000
通 信 費	51,730	雑 収	9,500
印 刷 費	20,580	受 取 利 息	142
消 耗 品 費	6,841	収 入 合 計	891,642
支払手数料	3,465	(前期繰越金)	215,772
広告宣伝費	52,500	総 計	1,107,414
経費合計	889,643		
次期繰越金			
現 金	1,485		
銀行預金	148,286		
郵便振込口座	68,000		
繰越金合計	217,771		
合 計	1,107,414	合 計	1,107,414

作成者:辻村 脩

上記内容監査の結果、正確に会計処理がおこなわれていることを、報告します。
平成13年2月7日
監査役 福井 功

海旅業界関西シニア会 平成13年度 予算

自 平成13年1月1日
至 平成13年12月31日
単位:円

支出の部		収入の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
総 会 費	390,000	入 会 金	5,000
部会活動費	200,000	年 会 費	500,000
懇親パーティ費	200,000	総会新年会会費	330,000
会報制作費	120,000	懇親ビヤパーティ会費	160,000
通 信 費	50,000	雑 収	10,000
印 刷 費	20,000	受 取 利 息	150
消 耗 品 費	10,000	収 入 合 計	1,005,150
支払手数料	4,000	(前期繰越金)	217,771
慶 弔 費	20,000	総 計	1,222,921
雑 費	3,000		
総 計	1,017,000		
(次期繰越金)			
銀行預金	205,921		
現 金	0		
合 計	1,222,921	合 計	1,222,921

作成者 辻村 脩

部会活動費補助金内訳

1.ゴルフ部会	20名参加	年2回	40名×2,000=¥80,000
2.旅行部会	30名参加	年1回	30名×2,000=¥60,000
3.トレッキング	20名参加	年2回	40名×1,000=¥40,000
4.部会活動連絡費			4名×5,000=¥20,000
			合計 ¥200,000

活動報告

ゴルフ同好会



◆平成12年度活動(敬称略)

- 第21回大会 4月3日 三田レイクサイドカントリークラブ
参加者 11名
優勝 安川 葵 2位 早瀬 久義 3位 寺西 徹
- 研修会 6月5日 ロータリーゴルフクラブ
参加者 14名 (内同伴プレイ者 1名)
優勝 高橋 謙治 2位 石丸 麻利江 3位 工藤 好彦
(6月22日 前任幹事 寺西徹氏より 高橋謙治 幹事交代)
- 第22回大会 9月25日 真庭カントリークラブ(旅行部合同催行)
参加者 16名 (内同伴プレイ者 2名)
優勝 境 暁士 2位 福井 功 3位 石丸 賛治
- 研修会 11月24日 亀岡スポーツ振興カントリークラブ
参加者 15名 (内同伴プレイ者 1名)
優勝 早瀬 久義 2位 須摩 信雄 3位 谷口 淳

以上のようにゴルフ部会の正式なコンペ2回と他に2回研修会を、又別に有志による練習会を10月16日に一庫レイクサイドカントリーで行い、活発に活動しました。

◆平成13年度計画

- 第23回大会 4月10日(火) 能勢カントリークラブ
- 研修会 6月上旬(日時場所未定)
- 第24回大会 9月又は10月(日時場所未定)
今年度より旅行部と合同催行は行わない事になりましたので、両方で調整し発表したいと思います。
- 研修会 11月中旬(日時場所未定)

以上概略で申し訳ありませんが、ご報告といたします。

尚利用コースにつきましては、会員の方のお勧めがあればご紹介頂ければ助かります。

(文責：ゴルフ同好会担当幹事 高橋謙治)

お知らせ

当会には、正式に承認・援助を受けている同好会が活発に活動しております。従来、ゴルフ同好会は、趣味を「ゴルフ」としておられる方全員に「例会案内状」を送っておりましたが、本来の目的に沿った運営を行うため、本年度からは同好会に正式にご登録いただいた会員にのみ、それぞれの行事案内を送付することになりました。まだ登録していない会員ご希望の方は、下記の幹事にお申し込みください。

ゴルフ同好会 幹事：高橋謙治 (電話) 075-934-0246 (Eメール) takahasi@eos.ocn.ne.jp
ウォーキング同好会 幹事：高山嘉明 (電話) 0797-31-3177 (Eメール) technotour@nyc.odn.ne.jp

活動報告



ウォーキング同好会



◆2000年の報告

企画5回、催行2回、中止3回

- 5月21日(日) 山の辺の道 会員6名参加
- 6月18日(日) 須磨アルプス 天候不良で中止
- 8月4日(木)～6日(日) 高野三山 申込者なく中止
- 9月10日(日) 伊吹山 天候不良で中止
- 10月22日(日) 京都東山トレイル 会員7名参加

番外編(企画2回、中止1回、延期1回)

- 11月23日(祝) 六甲全山縦走 挑戦者なく
高山の単独行
- 12月 香港トレッキングを予定しておりましたが日程調整困難で1年延期

上記のとおり天候に恵まれず催行2回と低調に終わった。なお、歩いてみたい候補地のリクエストをお待ちしております。会員からの要望で2月に雪山ウォーキングを企画し、トライアルとして2月18日に高見山の霧氷と雪山体験を実施。7名が参加して好評でしたので、平成14年2月10日(ベストシーズン)に企画する予定です。

◆新世紀ウォーキングへのお誘い

21世紀が明るく希望のもてる世紀と信じてアウトドアイベントで大いに楽しみたいと願い、今年のウォーキングを企画しました。昨年度実現が叶わなかった香港トレッキングを今年は是非実施したいと念じております。ウォーキングはストレス解消、足腰痛のリハビリ、運動不足から生じる生活習慣病の予防など多様なメリットがあり且つ安価で魅力です。定員も定めず、悪天候以外は催行します。海旅業界関西シニア会のご友人をお誘い合わせの上ご参加ください。会より1回ごとにお弁当代として、ひとり1,000円の補助金が支出されます。

◆予定

- 5月20日(日) 京都東山トレイルと大文字山
歩行時間3時間30分 9km
京阪電車「出町柳駅」集合 09:30
室町時代の東山文化を偲んで、哲学の道—銀閣寺—大文字山—蹴上
- 7月22日(日) 側川溪から槇尾山(大阪府南部)
歩行時間3時間10分 6km
泉北高速「和泉中央駅」集合 09:30
和泉山脈屈指の名瀑を見て、西国巡礼の道を辿るコース
- 8月3日(金)～5日(日) 高野三山(和歌山県)
毎日新聞社主催高野山大学に参加
南海電鉄「難波駅」集合 参加費約¥30,000
2泊3日5食付各界名士の講演と三山自由散策が楽しめます。
(7/27～7/29となる可能性もあり)
- 9月9日(日) 須磨アルプス(兵庫県)
歩行時間 3時間 12km
山陽電鉄「須磨浦公園駅」集合 09:30
六甲山縦走のスタートコースで、スリル満点の須磨アルプスの馬の背を歩き、明石海峡大橋、神戸市内眺望コース
- 11月11日(日) 室生古道(奈良県)
歩行時間5時間 16km
近鉄大阪線「榛原駅」集合 09:30
仏隆寺—室生寺(再建された五重の塔)—大野寺(断崖仏)—室生口大野駅

◆海外編

- 12月13日(木)～16日(日) 香港トレッキング 3泊4日
費用概算 10万円
 - 1日目/4日目 フリータイム
 - 2日目 香港島またはランタン島トレッキング
 - 3日目 九龍トレッキング

各コースとも、参加希望の方には別途、詳細案内書を実施2週間位前にお送りします。

(文責:ウォーキング同好会幹事 高山嘉明)



他力一宇宙の絶対者

渋川 摂也

帰命無量寿如来、南無付加思議光（きみようむりょうじゅにようらい、なむふかしぎこう）というお経の一節は、なんとなく幼少の頃聞いた覚えがあって、

夕暮れ時におじいさんやあばあさんが、仏前でおつとめをあげておられた記憶が漠然とある方が多くいらっしゃるのではないのでしょうか。これは、浄土真宗の大切なお勤めの一つとして私達のご先祖によって今日まで長い間うけ継がれてきました。この二句は、「無量寿如来に帰命し、不可思議光に南無したてまつる」と親鸞聖人が自分の信心を述べられたものであります。

「南無」とはサンスクリット語の「ナマス(namasu)の音を仏教がインドより中国を経て伝来した時に漢字に訳したものといわれ、「帰命」とも訳されています。「ナモ(namo)」という言葉もあるそうですが、どちらも尊敬と信頼の意味を表わします。

浄土真宗の第八代宗主、蓮如上人は「南無」とは帰命なり、「帰命」とは至心なりと言われました。帰命とは「命」あずけるという事でお任せする」ということでもあります。「至心」とは心の底から一点の疑いもなくお任せするということでもあります。

そこで、そのお任せする阿弥陀仏とは、ということになりますが、「阿弥陀」とはサンスクリット語の「アミッターユス(amtayus)」の漢語訳であり無限の生命力、即ち「無量寿」をあらわすものであり、また同じく「アミターバ(amitabha)」は「無量光」限りない真理の光をあらわすものであります。即ち、無量寿、無量光は宇宙に脈打つ限りなき生命のエネルギーと世界のすべてを隅々までくまなく照らす真理の光といえましょう。

「南無不可思議光」は不可思議如来のことであり、不可思議とは我々人間が思いはかることができないという意味ですから、不可思議光如来は思いはかることの出来ない光明の如来のことです。この我々が思い図ることが出来ない超越した世界におわす阿弥

陀如来に全てをお任せするという世界に新鸞聖人の他力本願の信心の真髓があると思います。

「わがはからい(計らい)にあらず、すべて如来のはからいである」という「自然法爾の真の悟りの境地にすべてが表わされているのではないのでしょうか。これは「じねんほうに」と読みます。自然とは「おのずからしからしめる」ということであり、法爾とは上述の無量寿、無量光の阿弥陀如来の「はからい」によって、おのずからしからしめられるという事でもあります。「見えない力に働きかけられる」「見えない力」がおのずからしからしむ、という所に真の他力の意味があると思います。最近、他力本願という言葉が一般世間において安易に使われているのをよく目にします。これは、決して自分は何もせず、ただ他の人の努力するのに任せて自己の利を得ようと、ずるく決め込んでいるという意味ではありません。真の「他力」とは、我々煩惱に満ち満ちた人間が煩惱を滅せずして仏の悟りをひらかせて頂く世界を言います。煩惱とは、広辞苑には「衆生の心身を煩わしく悩ませる一切の妄念」と書かれています。これは、いわゆる自己中心の心であります。まさに、現代の「じこちゅう」そのものではないのでしょうか。自己中心の考え方によって周りの事が、また取り巻く人々が自分の思うままにならないという所に悩みが生じます。素直に仏の教えを受け入れられないのは、やはりひとりよがりの心が邪魔をしているからであります。仏法を他人ごととしてしか受けとめようとしないのは、その心のせいではありません。

現代科学の素晴らしい発達は、人類に大きな幸せをもたらしましたが、同時にその大きな負の部分にも目を覆い隠すことは出来ません。その煩惱から切り離されることが出来ない我々人間が、少し発想をかえて宇宙レベルで物事に対処、考察する事によって、何か人類のさらなる目標が見えてくるのではないのでしょうか。



六甲全山縦走

高山 嘉明

1991年11月23日、The Longest Dayの第1回挑戦。単独で神戸市主催の縦走に参加した。不安のまま、56km、15時間のスタートを、午前5時45分須磨浦公園駅チェックポイントから第一歩を開始した。難行苦行の末、午後8時30分、よれよれになりながら宝塚温泉ゴールに到着。それ以来10年間に9回挑戦して8回完走を果たして、合計走行距離500kmは大阪-東京間の距離となってしまいました。年一回の足腰と気力のバロメーターとして定着しています。緩やかに見える六甲山脈は、海から山への急坂が見た目よりきつく、縦走路もアップダウンがあり、何よりも距離の長さや夜行に特徴がありますが、人気は絶大で25年間続き、北は北海道から南は沖縄からの参加者があり既に73,000人が完走し、完走率も男86.8%、女77.8%と高く、年齢層も多彩で、60歳以上が10%、50歳以上となると45%と中高年が半数近くを占める素晴らしい大会です。

次に難行と絶景をピックアップしましたので、参加意欲のある方は参考にしてください。

★難所と景観

1. 須磨浦公園駅12m→旗振山253m 高低差241m。夜明け前、身体の細胞が目覚めないうちの階段登山。頂上から明石海峡大橋と須磨浦の海と残照の月、東の空は夜明け準備の明るさ。
2. 高倉台団地152m→榎尾山274m 高低差152m。石の階段を直登、渋滞のため寒気の中で足踏みしながらの待機
3. 横尾山312m→東山258m 須磨アルプス（馬の背）風化して崩れた花崗岩の痩せ尾根、滑らないように爪先に力が入る。土（茶）、松（緑）、紅葉（赤）の3色のコントラストが絶好の被写体。
4. 菊水山458m登頂 取付口からの高低差250m ほど午前10時を過ぎて気温上昇、急登と歩幅の大きな階段のため、汗が噴出して心臓が悲鳴を上げるほど午前中最大の難所。二度と登りたくないと感じる所。頂上からは海と市街地と六甲山脈の全てが見える素晴らしい眺望。
5. 市ヶ原250m→摩耶山702m 天狗道高低差452m。コース最長かつ最大の高低差の登山道。昼食後のためエネルギーは充分にあるがスタートから8時間以上も経過しているため、足の疲労度は相当なもので痙攣多発の天狗道で走行速度に差がつく箇所。本当にきつい。但し、市ヶ原周辺の紅葉



(初回の記録カードと、1994年海旅業界関西シニア会メンバー野上氏との完走記念写真)

は色、ボリュームともに素晴らしい。山頂ではホットレモンのサービスがある。

6. 縦走路分岐点→塩尾寺(10km)暗闇の樹林を下りの長い長い道。目標物が見えないため、足もとの電灯の光だけを頼りに単調に足を運ぶ。周囲に歩行者なく一人だけではとても歩けない気分であり、且つ崩れた箇所が多い悪路の連続。分岐点手前にある六甲山直下の一軒茶屋の温かいうどんがうまく感じる最後のオアシス的なところ。途中の大平山無線中継所でNTTの電話サービスがある。
7. 塩尾寺354m→宝塚温泉48m 3kmで306m 降下。下り最大の難所。53kmを歩いて疲れきった足に舗装道路の固い衝撃と急勾配はまさに地獄の一丁目。充血した爪先、水がたまった足の裏、張りつめた筋肉の足を引きずりながら、ゴールへのFinal Approach、来年は絶対にやりたくない!! と考えるほどつらい。後ろ向きや横向きに歩く姿があり、通常の歩幅の1/3くらいでゆっくり顔をゆがめながらゴールへやっとたどり着く。ボランティアの女性から記念盾を受け取り、“The Longest Day”は終る。完走記念写真を撮影して宝来橋を渡り、阪急電鉄宝塚駅に到着、あとは駅の階段以外は人任せで帰宅。翌日の出勤はきついが何とか休まずに8回で終えたもののいつまで続くか。

10回完走を一区切りとして、次はボランティアに参加予定。2001年は11月23日、9回目の完走に挑戦予定。

中之島からみた国際エアライン黎明記の思い出

若林 和彦



私が入社した1960年、パンアメリカン航空は大阪グランド・ホテルの1階、フロント・オフィスの裏側に位置し、ホテルからフェスティバルホールへの通路に続く廊下に面してチケットカウンターがありその入口のドアは金色の真鍮合金製の重

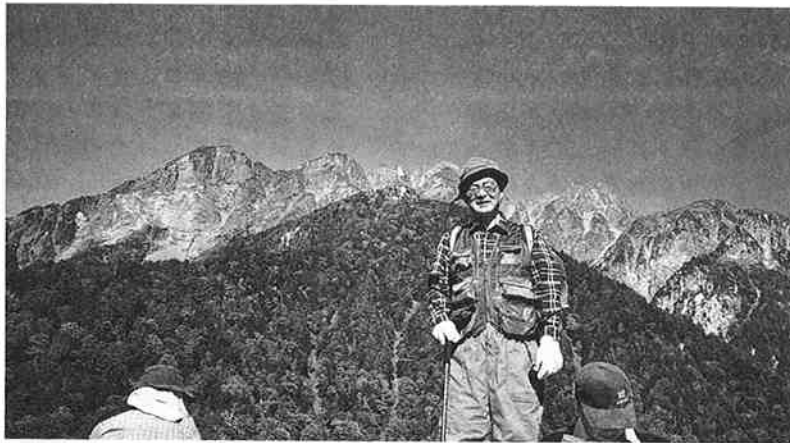
厚な格子にパンナムのシンボルマークである地球がデザインされていた。その格子を通して事務所の中がみえる。カウンターの後ろには予約の席が2席、その後ろに営業と秘書、一番奥が支店長室という総勢8名のこじんまりとしたオフライン事務所であった。その頃海外旅行といえば業界視察や生産性本部主催などに名を借りた業務渡航が大半でよくホテルでの説明会、出発前の結団式などで16ミリ映画を映すのを営業の中村氏(後にアメリカン航空へ移籍)や福井氏に連れられて手伝ったり、アメリカ旅行の記念に「日付変更線通過記念証」に名前の記入を手伝ったりした。カウンター業務はベテラン中峯女史にご教授いただきながら予約の方も次第に慣れてくる。大奥のほうは小寺女史が取り仕切っていて赤田マネージャーを始め営業を含めて皆のママさんであることは業界周知の事実。よく仕事を終えてマネージャーが帰ったのを見届けてはカップヌードルや近くの「助六そば」から出前を取ったりして皆で社内映画観賞会等を楽しんだ。今から思えばよくホテルの中へ出前をしてくれたものだ。

ドア一つ隔てた隣のビルにはCATとQFの事務所があった、四ツ橋筋をはさんで朝日新聞ビルの中にNWA、桜橋の産経ビルにはBOAC、KLMやスイス航空もその近く。淀屋橋にはエールフランスとSAS、阪急梅田の航空ビルにCPAL。当時在阪外国航空会社といっても10社で全部がオフラインであった。オンラインといえばDC6を運航していたキャセイ(BOACがGSA)とCATのみ。各社大なり小なり規模も似たようなもので営業も予約を手伝い必要に応じて航空券のエンドースを貰ってきたり、各社ロゴ入りのキャリオン・バッグを代理店へ届けたり一人何役もこなす家内生産的環境にあった。一方の代理店としては電鉄系のHankyu, Hanshin, Kintetsu, Nankai, 船会社系のSharp, EverettそれにJTB, NEC, NTA, がIATA公認だった。代理店各社にも海外事情、タリフ、発券等につき専門的知識と見識をもった一家言ある先輩たちがいて(あえて名前は省きますが)新参者には怖かったものだ。予約業務はデンワを通じてはあるが直接声を交わす。話癖で誰か判別でき、

声の調子で気分が分かるような温かみのあるコミュニケーションが自然と存在した。営業も足で歩いて直接面談するのが常識の時代だった。海外旅行客も増加の一途をたどりオフラインと言えども業務の拡大で今までのようなきめの細かいことはだんだん難しくなってくる、その頃に予約業務の効率化を検討するため大阪にInterline Reservations GroupがJALの先導で発足することになった。頭文字をとってOIRGと呼ぶ。この組織はIATA Manualで定められたもので定期航空会社5社以上運航している場合にその設置が決められているもので、空港と市内の交通機関の情報、所要時間、空港での乗り継ぎ時間(Minimum Connecting Time)の設定に携わりIATAへ報告などを行う。この会で急増する予約を効率よく処理するため「予約の為のガイドライン」を作成し各代理店に参考として使用をお願いすることになった。必要最小限の情報をもれなく伝達することが要求されると人間味が無視されがちになる。OIRGでテレフォン・コンテストを催してより親切、丁寧なデンワの受け答えの重要さにつきキャンペーンをしたのもこの頃です。1964年(昭和39年)海外旅行の自由化(一人年一回500ドルの外貨持ち出し許可)が現実のものとなる。同年、東京オリンピック開催、新幹線東京新大阪部分開通、名神高速自動車道開通とわが国も高度成長期へと向かうことになり、旅行業界も又ジェット機からより大きいジャンボ(1967年に製造着手)機日本乗り入れ(1970年)の時を迎えるまでの間に、予約にもコンピューターが導入され始める。営業の仕方も予約業務においても新しい大量輸送時代に即した考え方への適応を余儀なくされることになる。OIRGで夏にはビール工場見学・試飲会、京都都ホテルでのプールと宿泊、そしてKAC(Kansai Airlines' Club, 現在のKAMAの前身)主催での神戸外人クラブでのクリスマスのビンゴゲームや夏のプールサイドでのバーベキューなど楽しい催し等いずれも「古き良き時代」の1ページです。OIRGはその後メンバーも増え、オンラインキャリアも増えるにつれ、その活動も多様化し研修会を開いたり、ゲストスピーカを迎えての会合など充実を図ってきました。OIRGに参加していた当時のメンバーには、私のつたない記憶によると(順不動、敬称略)次のような方々がいました: AF(鹿浦、前田)、BA(上田、加瀬。後JALへ移籍、Ms宮崎)、KLM(飯田、黄)、JAL(菊田、畝田谷、Ms吹田)、NWA(Ms Nobi 須崎)、Swissair(Ms 薄田) SAS(Ms 藤岡、広田、寺本)、CAT(Ms 浜田)、QF(お玉チャン、名前を失念)。

私の旅行屋人生

山田 晴義



22歳で日本旅行会に入社して40年の旅行屋稼業に、昨年末「区切り」をつけました。昭和37年入社した当時は、国鉄全盛時代でしたが、その一方日本航空や全日空のほか北日本航空・中日本航空・藤田航空・東亜航空など中小航空会社が活動し航空時代の幕開けの時期でした。わたしは東京航空部に配属され八重洲のJALや田村町のANAなどに通い、鉛筆書きの予約台帳を見ては団体などの枠をいただいたものです。当時は東京大阪間にムーンライトと呼ばれた夜間飛行便もあり、各便の席数が少ないため予約さえ取れば航空券が売れる良い時代でした。各地には有力な総代理店が一定座席をコントロールしており、彼らとの関係もまた大事な時期でした。私の父母などは航空機に乗っておらず、周りからうらやましく言われてなんとなくエリート気分でした。若いながら東京での航空担当者をもとめたりしつつ、楽しんでいたのですが長続きはしませんでした。40年に年末年始の航空座席を大量に仮抑えした事件でその責任を取らされ大阪に配置換えされたのです。

大阪での仕事は、当時はアメリカ軍の信託統治下の沖縄旅行はじめ海外旅行企画でした。未だ戦後の混乱が収まっていない時期で1\$が360円、一人\$500しか外貨が購入できません。尚且つ、渡航のためのライセンスが必要でした。沖縄をはじめ台湾・香港が主な行き先でしたが、APLの宮本さんのセールスで片道船を使う香港コースが人気でした。

海外の仕事の面白さを覚えて神戸へ転勤し「元

町のヨーロッパ」の企画が大当たりしました。毎月パリ・ローマを往復することが数年続き、当時JAL神戸支店の榊さんにも本当にお世話になりました。KNT

の山下さんと知り合ったのもこの頃でした。営業第一線の仕事はこれが最後となり、後は管理部門の仕事ばかりとなりました。

わたしにとって昭和40年代50年代が一番の楽しく仕事をした時代ですが、同時に旅行ブームが背景にあった時期でもありハッピーであったと思います。海旅業界関西シニア会には40歳台に榊さんから誘われて「四捨五入で50歳だから」と創立時からのメンバーですが、会合のたびによき時代を思い出します。

最近では、毎年数回の海外旅行をプライベートにしていますが、思い出の街で懐かしい店を訪ねるなど、元気な限り旅をわが人生と楽しみたい昨今です。裏谷さんバリ滞在プランなど有志の皆さんとぜひ出かけてみましょう。

編集後記

「海旅業界関西シニア会会報」の編集が、新米事務局長の初仕事となりました。四苦八苦しながら、役員の方や原稿をお寄せいただいた会員の皆様のご協力、何とかゴールデンウィーク前にお届けすることが出来そうで、胸をなでおろしているところです。いや、まだ安心は出来ません。発送が完了するまでは、気が抜けません。

恒松新会長以下7名の新役員は、12年間先輩たちが築いてくれたシニア会をさらに盛り上げるため、会員のコミュニケーション強化、さらに会員の増強など新世紀に相応しいシニア会にしようと張り切っております。この会報が、その一翼を担うことができれば…と念じております。会員各位のご理解とご協力をお願い致します。

(事務局 仲)